

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社 宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム えがおの里 浜北(いちごユニット北側)		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102番地		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念を念頭に、「その人がその人らしく」を大切に、「一人ひとりの思いを尊重した介護」を目指しています。地域との関わりも大切にしています。地域ボランティア活動も積極的に受け入れ、散歩などの際には地域の方々に挨拶を交す等の、コミュニケーションを図ったり、毎年恒例のホームでのお祭りには、地域の方々もお招きし、入居者の方々も地域の一員であることを相互に認識し合う機会となっています。敷地内には、「えがおの里農園」と称し、季節ごとの野菜を育て、入居者の方々にもお手伝いをして頂きながら、野菜の収穫し、食事の時に提供しています。その他に、毎月イベントやドライブ、買い物なども定期的に行う事で、季節を楽しみながら生活して頂ける様取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30 年 2 月 20 日		

法人の理念である「利用者とその家族・職員全体がひとつの家族として和をもって共に歩むこと」を基に職員は毎日の活動で実施している。管理者は職員不足がいいケアに繋がらないと、職員の定着を大事に考え管理者と職員、職員同士のコミュニケーションに力を入れ、自信を持って介護ができるように勉強会の実施や毎日体操で身体を動かすことや、具体的に週単位で掃除の日、おやつ作り、買い物の日、外出支援、音楽で楽しむ土曜日にカラオケ等毎週日決めて実施することで利用者・職員が笑顔で落ち着いて過ごせる時間が増え、退職者もなくなった。自治会との関係も良好で防災訓練には学区の中学生や住民が参加しての避難訓練を行い、施設の敷地内が小学生の通学集合場所で近所の住民も利用しているなど日常の自然な形で地域交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて基本理念を唱和し、職員一人ひとりが理念に沿ったケアを実践できるようにしている。 管理者が必要に応じて緊急ミーティングを行い、理念の再確認をしている。	入居者・家族・職員が家族と捉え家族の和を基に尊敬・感謝の心を持ち共に支えあう法人の基本理念は玄関・事務所に掲示しており、職員に浸透されている。各ユニットごとに職員が話し合っ毎月の目標を決めているが、事業所独自の理念はない。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭典に参加し、ホームのエントランスを開放し、地域の方々との交流を深めている。 また、年1回のホームの祭りや、ボランティアイベント開催時には、近隣の方々にチラシを配って案内し、一緒に楽しむ時間を持つよう呼びかけている。	自治会の行事への参加や近所の人たちとの日常的な交流を行っている。事業所前の駐車場が小学生の通学時集合場所であり、住民の井戸端会議の場所になっていて洗濯を干したり、朝の掃除をしていると犬の散歩や通る人と会話を交わっていて介護の相談に来る人もいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学の職場体験の申込があり、体験を通じて認知症の人の理解や職場の状況を理解していただいている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1回開催している。毎回、現状報告だけでなく、テーマを設けることで、積極的に意見を出し合い、内容の深い会議が出来ている。会議には参加者が手製の漬け物を持って来るなど、アットホームな雰囲気の中で親睦も深めている。	自治会長・地域包括センター職員・民生委員・市介護保険課職員の参加があり、地域の高齢者のことが聞かれたり、活発に質疑や意見が交わされている。家族の参加を募る為、議題を「1日の生活について」にして案内を出した。参加した家族からの意見を活かせるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には必ず連絡を行い、可能な限り運営推進会議に出席をお願いしている。 疑問点があれば、随時、確認している。	行政に管理者の交代後の問題点、運営推進会議開催についての事や認定調査のことなど相談したり、指導を受け対応している。利用者の入院やその後の行き先等家族と包括支援センター職員と相談し、良い方向に向くように取り組むなど協力関係を築くようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主にホーム会議にて、資料等を元に職員に話し合う時間を設け、身体拘束をしないケアを周知徹底している。 また、ホーム内に啓発ポスターを貼るなどして、入居者様や家族様へ取り組んでいることを提示している。	新人スタッフに身体拘束マニュアルにて拘束について指導をしている。全体会議の勉強会で以前の事例をテーマに話し合い絶対起きないように周知徹底している。玄関ユニット間の施錠はなく見守り重視危険回避に努め、利用者は自由に庭に出て洗濯干しや広い駐車場の椅子で過ごすなどしている。

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や面談を行い、勤務中に問題のある行動や言動がないように、話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議やミーティングにて制度の関して学ぶ機会を設け、必要となるときに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の読み合わせを行い、充分理解していただくように努めている。入居後には、改めて不明な点や疑問な点がないか、確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた時には、積極的にコミュニケーションを取り、日ごろの様子を伝え、要望があれば速やかに対応するよう努めている。	家族の訪問時に玄関の意見箱に入れてもらえるよう声をかけている。家族から本社へ直接意見があり、緊急ミーティングを開き速やかに対応した。家族の面会時にはその日の様子や最近の様子を管理者と職員から話すようにし、家族の気持ちになって、安心してもらえるよう対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を設け、個人の意見を確認するとともに、管理者は日頃から職員の意見や相談があった時には速やかに話を聞く時間を作る等して、信頼関係も築くよう努めている。	職員はリーダーや管理者に意見や要望を言いやすい関係になっていて、会議や普段でも積極的に提案をしている。レクリエーションのことやシャンプー等備品のこと等ノートに記入し共有されている。薬の管理についての職員から提案に対応し誤薬など薬の安全管理が改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当の支給、昇給を行い、やりがいがあり、向上心をもって勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの力量を把握するよう、職員とコミュニケーションを取りながら、課題となるべきことを確認し、勉強会で取り上げるようにしている。社外研修も受講する機会が有り、日々のケアの実践に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者との交流の場に参加したり、同属の別の職場との情報交換などを通じて、よりよいサービスの提供のため、積極的に意見を交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より入居前の状況を時間をかけて聞き取り、安心して生活が送れるように関わっている。また、入居後は環境も変わり、不安状態が見られることもあり、声掛けや見守りを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後には家族様へ入居後の様子を伝えるようにするとともに、家族様が面会に来られた時に不安なことや要望があれば承り、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が必要としているサービスが提供できているか判断し、家族様と相談しながら本人様にとってよいサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや清掃、洗濯物を干すなど、一緒に行っている。生活動作をともにを行い、充実した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて連絡し、安心していただけるよう、家族様とのコミュニケーションを大切にしている。共に入居者様を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、親戚、友人、知人、どなたでも自由に来訪できるように対応している。外出、外泊についても同様になっている。	「同級生に会いたい」気持ちが相手にもあって入居を知った同級生が家族を通じて訪ねてきた時や日頃から来る友人に継続してきて欲しいと声をかけている。家族が対応して以前から行っている美容院や馴染みのお店でコーヒーを楽しまれている。	

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での座る位置を考え、利用者同士で会話ができるように配慮している。 一人ひとりの性格を考慮し、良い関係が保てるよう、状況に応じ職員が間に入る等、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼実績を基に、相互に相談できる関係性の継続に努めている。 退所後も行事にお誘いし、参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員からの利用者の希望・意向を職員全員で情報共有し、生活の中で希望に沿えるような支援に努めている。	家族から聞いている本人の思いや日常生活の様子や声掛けから希望など聞けて把握している。言えない人の思いをすくい上げる為、その人の癖を知って関わり、観察、表情の変化を読み取り、例えば職員の作る折り紙をずっと見てる姿で察して提供してみて喜ばれることがあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、入居時の情報以外にも日常の中で会話や行動から新しいヒントが得られるよう注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、言動のささいな変化を申し送りや記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回行うカンファレンスにて、入居者様また家族様のご意向を直接接する担当職員が確認し、現状の課題に合ったケアを共通認識の下、実施できるようにしている。	更新の1ヶ月前から短期目標を評価し家族に訪問時や電話で内容を伝え、意向を確認している。ホーム会議やカンファレンスで計画評価の見直しをし、ケアマネジャー作成の計画書をモニタリングし担当者会議で評価しやすい支援内容の計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した介護日誌や申し送りノートを活用し、個人の体調や心身の変化について話し合いながら介護計画を見直している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族様が対応できない時には、家族様と連絡を取りながら状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験や祭典などで子供達や地域の方々との交流ができていたため、入居者の皆様の刺激になり、心豊かな日々を送れていると感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様の希望で従来のかかりつけ医へ家族の付き添いで受診される人もいます。 施設提携医は月2回の往診と緊急時の連絡体制を確保している。	現在は1名以外提携医で月2回の往診があり、終末期・緊急時の対応など安心である。以前からの馴染みの主治医と口腔外科・リウマチ等の他科受診は家族が対応して結果は聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護等による健康チェックや処置及び指導を受けている。 日々の健康管理や医療的な相談もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携に努め、お互い情報を提供しあい、電話や面会等で情報交換し、退院後の対応なども相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、以後、状態の変化がみられた場合、家族様、入居者様と話し合い、方向性を一緒に考えている。	ターミナルケアの受け入れ支援の取り組みはあり契約時に説明同意書を得ている。入院やターミナルの状態変化が見られたら話し合い遠方の家族にも電話で伝え最終的には看取りの時点で意向の再確認をしている。職員の勉強会を実施し、精神面での準備もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急搬送時の情報提供シート」や提携医の「受診管理表」を緊急対応の為、個人台帳で管理しているが、定期的な訓練は行っていない。今後、職員全員が対応できるよう訓練していきたい。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度、施設独自の防災訓練は計画段階だが、毎年地域の防災訓練に参加しており、学区の中学生が入居者様を屋外へ誘導する訓練に参加している。今後、消防計画にある年2回の総合訓練を行っていききたい。	事業所は地域の防災訓練の会場の1ヶ所で町内の役員や住民・学区中学の男子学生が15名参加し車椅子を押し誘導、避難訓練を行うなど地域の協力を受けられている。防災管理者が現在研修中で今後夜間想定や多種の災害に対応する訓練を検討中である。水・食料・カセットコンロの準備はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を踏まえ、特に入浴・排泄時にはプライベートを配慮した介助、自己決定できるような声掛けを行っている。	トイレの扉は閉めて、小さな声で自己決定を待ちできることはさり気なく声掛けをするようにし意思を聞いて必要な支援を行っている。職員目線ではなく、個々の利用者の状態を把握し、尊重した介護をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がしたいこと等、希望や思いを普段の会話から引き出せるように、心掛けている。希望や思いは出来る限り実現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを尊重し、思いのまま過ぎて頂けるように配慮している。活動を行う時も、参加か否か確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容に来ていただいている。髪型も本人の希望を伺っている。更衣の衣類については、可能な限り本人に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のやり方で野菜の下処理、盛り付けなどをしてもらっている。食器拭きや下膳など、出来る事はやっていただいている。	3食共職員の手作りで利用者の出来る人が野菜の下処理や味見等することもある。朝食時希望があれば副食に合わせご飯とパンの選択もある。毎週金曜日のおやつの日には希望を聞いてメニューを決め、参加している。ドライブでハンバーガーを食べに行ったりコーヒー喫茶の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、主食は普通、お粥、副食は普通、刻みなど、食べやすい形態で提供している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りにて口腔ケアを行っている。使用後の歯ブラシ等は毎晩ジアノク消毒し、清潔を保っている。治療や義歯の調整の必要な入居者様については、歯科往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、必要な場合には定期的にトイレ誘導をしている。失禁等があった場合は、その都度陰部洗浄を行っている。	排泄パターンを記録しその人にあつた定期的なトイレ誘導を行うことで最近では失敗が減少し、全員が布パンツやリハビリパンツのみの使用で夜間もトイレ誘導でオムツの使用はなくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用表を用い、個々に応じた対応をしている。定期的に水分提供、声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入居者様の希望に沿つた時間帯に入浴できるよう配慮したり、拒否のある方には、前日に入浴の約束をするなどして、声掛けの仕方を工夫している。	自己決定される人で決めたことは必ず守る人に前の日に次の日の入浴を聞き約束をするなど拒否もなく入浴する人など個別にその人の性格を知つて対応することで概ね週2回～3回、毎回湯を替えゆとりを持って入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝のタイミングや空調・照明は本人に合わせ、寝具のリネンは週1回洗濯し、気持ちよく眠れるように対応している。日中、昼寝の時間も尊重し、適宜声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを用い、利用者の薬に関する情報を共有している。服薬も朝昼夕で3つのファイルを使用し、チェックは別の職員がする様にしている。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活スタイルや性格を考慮し、出来る作業やレクを提供している。 毎月行事を計画し、楽しみのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望があれば、職員や家族付き添いのもと、外出支援をしている。 月の行事でドライブ等の外出支援もしている。	天気の良い日は外用の椅子やソファに座って洗濯干し、庭の畑での作業等外気浴をしている。2日に分けて週1回はショッピングセンターやドラッグストアへ買い物に出かけ、車で近くの公園に行ったり季節を感じる花見等ドライブでの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が事務所で預かり管理しているが、少額のお小遣いを自分で管理している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話等つなぐようにしている。また、職員と一緒に手紙を書く事もある。家族様と一緒に年賀状を書く入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、手すりは毎日ジアノック清掃し、清潔保持に努めている。 壁などに利用者と一緒に製作したカレンダーなどを、季節を感じる掲示物を飾っている。	玄関に季節の生花が活けてある。ホールや廊下の壁に利用者の手作りの貼り絵や塗り絵カレンダー等が掲示されて温かな空間になっている。一人ひとりの落ち着く場所があり好きな場所で食事の時でも過ごしている人がいる。時計の時間を見るのが嫌な人がテーブルの座席から見えないところに時計を置く等その人のペースに配慮した工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は自由に移動できるよう動線を確保し、利用者の相性に配慮した席配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や写真、好きなものなどを置き、心穏やかに過ごして頂くよう工夫している。	使い慣れた冷蔵庫や足ふみマシン、ぬいぐるみ、おしゃべり人形等が持ち込まれ、壁一面に塗り絵が貼ってある部屋など担当職員の工夫でその人らしく居心地よく過ごせる居室になっている。どの部屋にもハンガーに濡れタオルをかけて加湿に注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 いちご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のADLに合わせた声掛け、見守り等を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社 宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム えがおの里 浜北(いちごユニット北側)		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102番地		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念を念頭に、「その人がその人らしく」を大切に、「一人ひとりの思いを尊重した介護」を目指しています。地域との関わりも大切にしています。地域ボランティア活動も積極的に受け入れ、散歩などの際には地域の方々に挨拶を交す等の、コミュニケーションを図ったり、毎年恒例のホームでのお祭りには、地域の方々もお招きし、入居者の方々も地域の一人であることを相互に認識し合う機会となっています。敷地内には、「えがおの里農園」と称し、季節ごとの野菜を育て、入居者の方々にもお手伝いをして頂きながら、野菜の収穫し、食事の時に提供しています。その他に、毎月イベントやドライブ、買い物なども定期的に行う事で、季節を楽しみながら生活して頂ける様取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年	2月	20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて基本理念を唱和し、職員一人ひとりが理念に沿ったケアを実践できるようにしている。 管理者が必要に応じて緊急ミーティングを行い、理念の再確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭典に参加し、ホームのエントランスを開放し、地域の方々との交流を深めている。 また、年1回のホームの祭りや、ボランティアイベント開催時には、近隣の方々にチラシを配って案内し、一緒に楽しむ時間を持つよう呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学の職場体験の申込があり、体験を通じて認知症の人の理解や職場の状況を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1回開催している。毎回、現状報告だけでなく、テーマを設けることで、積極的に意見を出し合い、内容の深い会議が出来ている。会議には参加者が手製の漬け物を持って来るなど、アットホームな雰囲気の中で親睦も深めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には必ず連絡を行い、可能な限り運営推進会議に出席をお願いしている。 疑問点があれば、随時、確認している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主にホーム会議にて、資料等を元に職員に話し合う時間を設け、身体拘束をしないケアを周知徹底している。 また、ホーム内に啓発ポスターを貼るなどして、入居者様や家族様へ取り組んでいることを提示している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 もも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や面談を行い、勤務中に問題のある行動や言動がないように、話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議やミーティングにて制度の関して学ぶ機会を設け、必要となるときに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の読み合わせを行い、充分理解していただくように努めている。入居後には、改めて不明な点や疑問な点がないか、確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた時には、積極的にコミュニケーションを取り、日ごろの様子を伝え、要望があれば速やかに対応するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を設け、個人の意見を確認するとともに、管理者は日頃から職員の意見や相談があった時には速やかに話を聞く時間を作る等して、信頼関係も築くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当の支給、昇給を行い、やりがいがあり、向上心をもって勤務できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの力量を把握するよう、職員とコミュニケーションを取りながら、課題となるべきことを確認し、勉強会で取り上げるようにしている。社外研修も受講する機会が有り、日々のケアの実践に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者との交流の場に参加したり、同属の別の職場との情報交換などを通じて、よりよいサービスの提供のため、積極的に意見を交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より入居前の状況を時間をかけて聞き取り、安心して生活が送れるように関わっている。また、入居後は環境も変わり、不安状態が見られることも有り、声掛けや見守りを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後には家族様へ入居後の様子を伝えるようにするとともに、家族様が面会に来られた時に不安なことや要望があれば承り、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が必要としているサービスが提供できているか判断し、家族様と相談しながら本人様にとってよいサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや清掃、洗濯物を干すなど、一緒に行っている。生活動作をともにを行い、充実した生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて連絡し、安心していただけるよう、家族様とのコミュニケーションを大切にしている。共に入居者様を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、親戚、友人、知人、どなたでも自由に来訪できるように対応している。外出、外泊についても同様になっている。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 もも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での座る位置を考え、利用者同士で会話が出来るように配慮している。 一人ひとりの性格を考慮し、良い関係が保てるよう、状況に応じ職員が間に入る等、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼実績を基に、相互に相談できる関係性の継続に努めている。 退所後も行事にお誘いし、参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員からの利用者の希望・意向を職員全員で情報共有し、生活の中で希望に沿えるような支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、入居時の情報以外にも日常の中で会話や行動から新しいヒントが得られるよう注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、言動のささいな変化を申し送りや記録に残し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回行うカンファレンスにて、入居者様また家族様のご意向を直接接する担当職員が確認し、現状の課題に合ったケアを共通認識の下、実施できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録した介護日誌や申し送りノートを活用し、個人の体調や心身の変化について話し合いながら介護計画を見直している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 もも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族様が対応できない時には、家族様と連絡を取りながら状況に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験や祭典などで子供達や地域の方々との交流ができていたため、入居者の皆様の刺激になり、心豊かな日々を送れていると感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様の希望で従来のかかりつけ医へ家族の付き添いで受診される人もいます。 施設提携医は月2回の往診と緊急時の連絡体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護等による健康チェックや処置及び指導を受けている。 日々の健康管理や医療的な相談もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携に努め、お互い情報を提供しあい、電話や面会等で情報交換し、退院後の対応なども相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、以後、状態の変化がみられた場合、家族様、入居者様と話し合い、方向性を一緒に考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急搬送時の情報提供シート」や提携医の「受診管理表」を緊急対応の為、個人台帳で管理しているが、定期的な訓練は行っていない。今後、職員全員が対応できるよう訓練していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度、施設独自の防災訓練は計画段階だが、毎年地域の防災訓練に参加しており、学区の中学生が入居者様を屋外へ誘導する訓練に参加している。今後、消防計画にある年2回の総合訓練を行っていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を踏まえ、特に入浴・排泄時にはプライベートを配慮した介助、自己決定できるような声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がしたいこと等、希望や思いを普段の会話から引き出せるように、心掛けている。希望や思いは出来る限り実現出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを尊重し、思いのまま過ごして頂けるように配慮している。活動を行う時も、参加か否か確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容に来ていただいている。髪型も本人の希望を伺っている。更衣の衣類については、可能な限り本人に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のやり方で野菜の下処理、盛り付けなどをしてもらっている。食器拭きや下膳など、出来る事はやっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、主食は普通、お粥、副食は普通、刻みなど、食べやすい形態で提供している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 もも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りにて口腔ケアを行っている。使用後の歯ブラシ等は毎晩ジアノク消毒し、清潔を保っている。治療や義歯の調整の必要な入居者様については、歯科往診を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、必要な場合には定期的にトイレ誘導をしている。失禁等があった場合は、その都度陰部洗浄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用表を用い、個々に応じた対応をしている。定期的に水分提供、声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿った時間帯に入浴できるよう配慮したり、拒否のある方には、前日に入浴の約束をするなどして、声掛けの仕方を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝のタイミングや空調・照明は本人に合わせ、寝具のリネンは週1回洗濯し、気持ちよく眠れるように対応している。日中、昼寝の時間も尊重し、適宜声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを用い、利用者の薬に関する情報を共有している。服薬も朝昼夕で3つのファイルを使用し、チェックは別の職員がする様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活スタイルや性格を考慮し、出来る作業やレクを提供している。毎月行事を計画し、楽しみのある生活ができるよう支援している。		

静岡県(グループホーム えがおの里 浜北 もも)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望があれば、職員や家族付き添いのもと、外出支援をしている。月の行事でドライブ等の外出支援もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が事務所で預かり管理しているが、少額のお小遣いを自分で管理している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話等つなぐようにしている。また、職員と一緒に手紙を書く事もある。家族様と一緒に年賀状を書く入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、手すりは毎日ジヤノック清掃し、清潔保持に努めている。壁などに利用者と一緒に製作したカレンダーなどを、季節を感じる掲示物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は自由に移動できるよう動線を確保し、利用者の相性に配慮した席配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や写真、好きなものなどを置き、心穏やかに過ごして頂くよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のADLに合わせた声掛け、見守り等を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		